

2017

# 視覚障害者のための調味料入れ

Spice Bottles for the Visually-Impaired

AD23 竹腰 亮  
指導教員 谷上 欣也

## 1. 研究目的

視覚障害は他の障害者に比べ、その不自由さが周りの人たちに理解されにくい面が多い。そんな視覚障害者の人々の日常生活を少しでも快適にできるようにそっと手助けできる日用品を作りたいと考えた。

今回はテーブルウェアの一つである調味料入れにスポットを当て、視覚障害者にとって使いやすいデザインを研究する。

## 2. 調査と分析

実際に市販の調味料入れを購入して、形状や材質、機能の調査、視覚障害者の観察やアンケートを行った。アンケートの結果、二つの大きな問題点があることが分かった。一つ目は触っただけでは容器の区別がつきにくいという点である。液体と粉モノの明確な区別がつくよう気を配る必要があると感じた。

もう一つは、調味料を出した量が正確にわからないという点で、容器本体に何か特別な機能を追加する必要がある。

他には強度面や詰め替え時の不安などが多く、落とした時に割れやすいガラス製のものには使用に少々抵抗がある人もいたようだった。

既存の調味料入れの調査の結果、液体、粉調味料共に、蓋はねじ式のもの主流で視覚障害者の方々が多く使用されているこのタイプは、詰め替えもしやすく、安心して使うことができると感じた。

## 3. コンセプトの立案

「ストレスを低減した調味料入れ」

調査で明らかになった視覚障害者の感じる不満を改善し、デザインに取り込む。

## 4. デザイン展開

今回は家庭で広く使われている醤油差しと塩・胡椒入れを製作した。

まず調味料を出した量が正確にわからないという不満点の解決策として、醤油差しには、ワンプッシュ式の機能を用いた。ボタンを一回押すと一定量(約0.4cc)の調味料が出て来るので、出しすぎの防止にもなる。

塩・胡椒入れは、プッシュ式は採用できない。そこで既存のものと同じく振って出すタイプにした。液体の調味料入れと違い、既存のタイプでも出しすぎの心配が少ないので、出口の穴の大きさや数で出る量を調整し、振った回数でだまかな量が予測できるように配慮した。

両方ともスタイリングは、あらかじめ作った多数のサンプルを使い、視覚障害者の方々に意見を聞きながら改良した。手の収まりを意識し、曲面を多く使用して大きさも小さめに設定した。

カラーリングは弱視者の方に見えやすい輝度比が高い橙色を使用した。

## 5. 完成図



## 6. 結論

検証を行った結果、形状、持ちやすさが共に好評で「形が特徴的で他のものと間違える心配もない」「手になじみやすく使いやすい」等の意見を多く頂いた。ワンプッシュ式の機能も好評だったが、押す力が強すぎてしまうと出しすぎてしまう事もあり、改良が必要である。また全体的に小さくまとめ過ぎてしまったため、既存のものより内容量が少なくなってしまった。

## 7. 参考文献

「見えない目で生きるということ 視覚障害者の暮らし・接するためのヒント」

<http://www.hanmoto.com/bd/isbn978-4-7503-1745-8.html>